第３・４学年体育科学習指導案（略案）

令和〇年〇月〇〇日（〇）〇校時

３年生〇名　４年生〇〇名　計〇〇名

指導者　　３年担任　〇〇　〇〇

　　　　　　　４年担任　〇〇　〇〇

１　単元名　　なかまと楽しく！ポートボール（ゴール型ボールゲーム）

２　単元の目標

（１）　シュートやパス等の基礎的な技能を身に付けることができるようにする。 【知識及び技能】

（２）　簡易化されたゲームの中で，基本的なボール操作とボールを持たないときの動きによってシュートしたり，空いている場所に動いたりして得点することができるようにする。

【知識及び技能】

（３）　みんなが楽しめるルールや自分のチームの特徴に応じた作戦を考えたり，伝えたりすることができるようにする。　　　　　　　　　　　　　　　　 【思考力，判断力，表現力等】

（４）　ゲームに進んで取り組み，勝敗を受け入れたり，友達の考えを認めたりして楽しくゲームをしたり，場や用具の安全に気を付けたりすることができるようにする。

【学びに向かう力，人間性等】

３　評価規準（◎＝３・４年生の評価規準，○＝３年生の評価規準，●＝４年生の評価規準）

|  |  |
| --- | --- |
| 知識及び技能 | ①　味方にパスを出したり，シュートをしたりすることができる。（◎）  ②　ボールを持ったときにゴールに体を向けることができる。（○）  ②　ボール保持者と自分の間に守るものがいない空間に移動することができる。（●） |
| 思考力，判断力，表現力 | ①　ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえ，チームにあった作戦を選んだり，伝えたりすることができる。（◎）  ②　自分の考えを発信することができる。（○）  ②　タブレットを活用して，作戦をチーム内で共有することができる。（●） |
| 学びに向かう力，人間性等 | ①　簡易化されたゲームに進んで取り組もうとしている。（◎）  ②　ゲームのルールを守り，誰とでも仲良くしようとしている。（◎）  ③　ゲームの勝敗を受け入れたり，友達の考えを認めようとしたりしている。（◎）  ④　ゲームで使用する用具などの準備や片付けを，友達と一緒にしようとしている。（○）  ④　ゲームや練習の際に周囲の様子を見て場や用具の安全を確かめている。（●） |

４　指導にあたっての工夫

（１）　対話を重視した「学び合い」

　　　　チームごとに活動を行い，試合を重ねる中でチームの作戦を立てたり，作戦を練り直ししたりする場面を作っていく。タブレットを活用して，ポジショニングなどを可視化できるようにし，どのように攻撃するか，どのように守るかなどを話し合いながら学び合いを深めていきたい。

（２）　異学年交流による「高め合い」

　　　　３・４年合同での体育を行う。人数の確保のためとともに，４年生が３年生に教えて高め合うということも意図している。チーム編成も１チーム内に３・４年が合わさるようにする。４年生の今までのボールゲームの経験などから３年生にアドバイスをして，チームとしての力とともに個人としての力も高め合っていけるようにしていきたい。

（３）　「できた」実感を味わわせる工夫

　　　　第１時目でポートボールを通して，どのようなことをがんばりたいか，どのようなことができるようになりたいかという個人の目標を立てさせる。毎時間の振り返りの際に，「分かったこと」「気付いたこと」「できるようになったこと」等の視点で書くようにし，自分の成長を実感できるようにしたい。また，ボール運動の苦手な児童に対して，意欲的に参加できるよう学習の流れを提示したり，動きのイラスト等を用いて提示しながら説明したりする。

６　本時の実際

(１)　目標

　　ア　ボールを持ったときにゴールに体を向けることができるようにする。(3年生）【知識及び技能】

　　イ　ボールを持たないときに，空間に移動することができるようにする。（4年生）【知識及び技能】

　　ウ　ボールを持っている人とボールを持っていない人の役割を踏まえ，チームにあった作戦を選んだり，伝えたりすることができるようにする。　 　　　　　　　　 【思考力，判断力，表現力】

(２）　授業設計の工夫

　ア　スピードや敏捷性，柔軟性を高める運動

　　 ３，４年生の課題である敏捷性，柔軟性を高める運動を取り入れ，継続的な体力向上を目指す。

　イ　話合い活動の充実

　　 作戦の全体共有では，これまでの児童のプレーを活用して作戦として紹介する。作戦ボードを

使って，ポジションや動きの確認ができるようにする。

ウ　運動の楽しさを味わわせるためのゲームの工夫

　 ゲームでは，「シュートを決める」というゴール型の楽しさや喜びを十分に味わわせるために，

選手の人数や場所の制限を行い，シュートチャンスが多くなるようにする。

(３）　展開（７／９）

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 過程 | 主な学習活動 | 時間 | ○教師の具体的な働きかけ　☆苦手な児童や運動に意欲的でない児童への配慮　(評)評価 |
| つかむ・見通す　　挑戦する・工夫する　　　　　　　生かす　　振り返る | １　準備運動・補強運動をする。  ２　ボール操作のドリル運動をする。    ３　本時のめあて・流れを確認する。  　チームに合った作戦を選んで，ゲームでためしてみよう。  ４　作戦タイム①  　(１)　作戦の確認  　(２)　自分たちに合った作戦を選び，作戦ボードで確認をする。  　ゴールの近くにシュートが得意な人がいて  ロングパスを出すからロングパス作戦でいこう。  ５　タスクゲームを行う。（ハーフコート）  　・タスクゲーム(２分×２)  　・攻守交代して行う。  ６　作戦タイム②（１分半）  　(１)　チームの作戦を見直す。  　(２)　作戦ボードを使って動きの確認をする。  ソース画像を表示  　ロングパスがなかなかできなかったから，引きつけ作戦もためしてみよう。  　シュートされないように，ゴールマンの前でディフェンスを増やして守ろう！  ７　メインゲームを行う。（フルコート）  　・ゲーム(4分)×２試合  ８　整理運動をする。  ９　学習のまとめを行い，振り返りをする。  　相手の動きを見ながら，チームに合った作戦を立てると，得点チャンスが増えたり，うまく守れたりする。 | １０  ３  ５  ５  ３  １０  ２  ７ | ○　実態よりスピード・敏捷性・柔軟性を高める運動を重点的に行う。  ☆　ドリル運動のアドバイスや個別にサポートをする。  ○　本時のめあてを確認して，全員が見通しをもって学習が進められるようにする。  ○　前時までの動画や写真を使って，作戦を共有し，話合いに生かせるようにする。  ○　リーダーを中心に作戦ボード(タブレット）を活用する。一人一人が自分の位置や役割，動きを確認できるようにする。  ☆　チーム内で分担する役割やゲーム中のポジションを個別に声かけし，意欲的に取り組めるようにする。  (評)役割を踏まえ，チームに合った作戦を選んだり，伝えたりすることができたか。（観察）  ○　作戦があまり生かせていないチームには，積極的に声かけを行い，役割の確認や動きのアドバイスなどを行う。  ○　作戦ボードを活用し作戦の見直しを行う。  ○　ゲームでは児童に撮影をさせ，撮影をした動画は次時の学習に生かせるようにする。  (評)ボールを持ったらゴールに体を向けたり，持っていないときに空間に移動したりすることができたか。（観察・動画）  ○　全体で本時のねらいに沿った振り返りが行  えるようにする。  ○　「できた」実感を持たせるために，振り返りでは自分たちのチームで上手くいった所を中心に発表させる。 |